

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第6区分

【発行日】平成16年9月24日(2004.9.24)

【公開番号】特開2002-205710(P2002-205710A)

【公開日】平成14年7月23日(2002.7.23)

【出願番号】特願2001-8(P2001-8)

【国際特許分類第7版】

B 6 5 B 31/04

B 6 5 B 9/06

【F I】

B 6 5 B 31/04 F

B 6 5 B 9/06

【手続補正書】

【提出日】平成15年9月10日(2003.9.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被包装物を等間隔に収容するチューブフィルムの移送軌道を隔て配置した一対の可動プロックにより、前記チューブフィルムを前記各被包装物の間ににおいて挟圧し、該両可動プロック内それぞれに設置したシールバー間の常設間隙を通して前記チューブフィルム内の空気吸引を行うと共に、前記チューブフィルム切断部を前記両シールバーの接近により加熱シールする装置であつて、前記両可動プロックは、それぞれの対向部に前記各シールバーを収容するスカート部を備えると共に、チューブフィルムの進行方向側の前記スカートに多数のトンネルを形成し、該スカート内に形成した各通路を介して前記各トンネルとサブ真空ラインとを連結してチューブフィルムを前記各トンネル壁に吸着する手段と、前記チューブフィルム切断のための切断刃を前記一側のシールバーに設置する一方、他側のシールバーに、前記切断刃を進入させる刃受溝を形成し、この刃受溝を介して、前記各トンネル壁に吸着したチューブフィルム内の空気流通路をメイン真空ラインに連通させる手段とを備え、前記サブ真空ライン及び前記メイン真空ラインをそれぞれ第1、第2開閉弁を介し、真空タンクに接続する装置。

【請求項2】

一側のシールバー内部に設置するスライド切断刃を、他側シールバーにおける刃受け溝内に押し込んで切断開口した前記チューブフィルム内の空気流通路を、前記両シールバー間の常設間隙を通じてメイン真空ラインに連通させたあと、一対のシールバーの相対接近により前記チューブフィルムの切断開口部を溶着する請求項1に記載の装置。

【請求項3】

一対の可動プロックによるチューブフィルム挟圧動作に対応し、サブ真空ラインと真空ポンプとの間に設置する第1開閉弁を開放し、その後メイン真空ラインと真空ポンプとの間の第2開閉弁を開放する請求項1に記載の装置。